

飯田市立病院における産科の取組み

【背景】

飯田市立病院は長野県南部の飯伊地域（1 市 13 町村）の中核病院である。（医療圏人口 18 万人、うち飯田市 10 万人）

平成 16 年度には、医療圏で年間の分娩件数が 1,911 件、産科医療機関 6 箇所で出産を扱っていた。

ところが、平成 17 年度には、分娩を扱う 6 医療機関のうち 3 医療機関が相次いで分娩取扱いを中止することが表明された。

さらに平成 23 年 2 月末で、1 医療機関が分娩取扱いを中止した。

飯田市立病院での分娩件数は、平成 16 年度は 537 件であったものが、18 年度には 1003 件、その後は 1000 件前後で推移してきたが、23 年度は 1200 件になると予測されている。院内の産婦人科医は 5 名であり、一人当たりの年間分娩扱い件数は 200 件を超えている。

病 院	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
市立飯田病院	537	552	1,003	1,008	960	1,006	1,006	
椎名クリニック	389	403	385	400	395	390	369	
羽場医院	130	114	208	250	259	218	181	2 月末で中止
平岩クリニック	521	501	41					2 月末で中止
下伊那赤十字	287	273	10					3 月末で中止
西澤病院	47	0	0					8 月末で中止
計	1,911	1,843	1,647	1,658	1,614	1,614	1,556	

※数字は分娩取扱件数

【取組み】

平成 17 年度：産科医療機関 6 箇所が 3 箇所に減少するため個々の医療機関や市町村単位では解決できない問題なので、地域一丸となって取り組むことを確認し、産科問題懇談会を発足させた。

地域協力体制（産科のセミオープンシステム）

- ① 飯田市立病院は、連携により従来よりも多くの分娩受け入れが可能な体制を整える。（分娩台 2 台から 3 台へ。分娩監視システムの増設。医師は 3 名から 4 名へ増加。）
助産師外来（妊娠 36 週以降の正常妊婦の健診）をスタート。
- ② 妊婦の初診は市立病院以外の医療機関で受診。
妊婦健診は市立病院と他の医療機関で連携し、市立病院の外来診療の負担を軽減。
- ③ 産科共通カルテを作成し、省力化と情報の共有化。

地域協力体制（婦人科）

- ① 市立病院は婦人科の重症例を担当し、がん検診や軽症例の治療は市立病院以外の医療機関が担当する。
- ② 原則として、婦人科の初診は、市立病院以外の医療機関の受診を推奨。
- ③ 初診医により市立病院の受診が必要と診断された場合は、医師の紹介により市立病院を受診。

平成 18 年度：飯田市立病院の助産師外来を充実

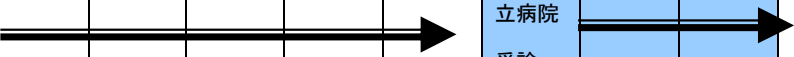
	17.4.1	18.4.1	19.4.1	20.4.1
助産師数	11 人	23 人	26 人	32 人

新しい妊婦健診のスタイルの導入（平成 20 年 4 月）

1. ハイリスク妊婦は、飯田市立病院で毎回医師による健診を受ける。

2. 開業医と市立病院による妊婦健診（セミオープンシステム）

	～9 週	10～11 週	～15 週	～19 週	～23 週	～27 週	～30 週	～32 週	～34 週	35 週	36 週
一般の妊婦健診	各医療機関受診	飯田市立病院受診	各医療機関受診						飯田市立病院受診		



3. 医師の健診と助産師外来とを組み合わせた健診（市立病院）

医師		○ 前期 検査	医師面談		○ スクリー ング		○ 後期 検査	医師 面談		帝王切 開術前	○
助産師 外来			○	○	○	○		○	○		



※スクリーニングとは、胎児に異常がないかを超音波検査でチェックすること。

【その他参考事項】

- 市立病院で行う妊婦健診のうち約 4 割を助産師外来が担っており、助産師外来で、異常が見つければ医師が診察する。
- 助産師外来の開設は、検査技師、助産師それぞれが専門性を発揮し、責任とやりがいを持って実践でき、医師の負担軽減につながっている。
- 助産師の当直は 2 交代。2 名が当直し、プラス 1 名をオンコール。
- 市立病院が 1 ヶ月間で扱う分娩件数は 90 件に制限している。地元は全員受けている。里帰り出産は月に 20 件ほどある。（出産の半年前くらいに里帰り出産をするかどうか確認している。）
- 当直は、小児科 5 名、産婦人科 5 名の計 10 名で、一人ずつが当直している。
- NICU は 4 床、GCU は 5 床。